

口は健康のもと Vol.111

脱タバコ宣言 ~喫煙は歯科疾患のもと~

昔から喫煙は歯科疾患を惹起させる要因の一つで、タバコに含まれるニコチンの作用は、血液循環を悪くし、歯周病に罹患しやすくさせます。また、副流煙により周囲のお子さんやお孫さんのむし歯のリスクが増加するなどと言われています。



おもいやりノースモーキング事業
キャラクター『ノースモーくん』

さらに、喫煙は呼吸機能にも多大な影響を与えます。最近、和田アキ子さんが出ている慢性閉塞性呼吸疾患（COPD）の啓発映像をご存じでしょうか？ COPDとは呼吸機能が低下していく肺の病気で、主に喫煙が原因となります。COPDは、重症化しないかぎり、患者さんにとって自覚しにくい疾患です。また、日本人の40歳以上のCOPD有病率は8.6%、患者数は530万人と推定されています。2010年、COPDによる死亡順位は全体で9位となっていますが、今後COPDの死亡順位は確実に上がるでしょう。

禁煙が容易ではないことは周知の事実です。もし、禁煙をお考えでもなかなか成功しない方には、現在、医師や歯科医師が禁煙のお手伝いをさせていただく禁煙外来や禁煙支援外来等が増えています。是非、受診してみてください。

奥羽大学歯学部附属病院

歯科麻酔科 講師 渡辺 正博

